松江市立東出雲中学校　第１学年　国語科学習指導案

日　時　平成 26 年 11 月 13 日（木）２校時
指導者　藤　田　和　子

１）単元名　蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から

２）単元のねらい

○古典作品のおもしろさにふれ、現代とつながりがあることに気づき、興味・関心をもって古典作品を読もうとする。【国語への関心・意欲・態度】
○場面の展開や登場人物の描写に注意して古文や現代語訳を読み、内容を理解することができる。【読む能力】
○歴史的仮名遣いや文語の言葉遣いについて理解し、古文特有のリズムに慣れ、楽しみながら音読することができる。【言語についての知識・理解・技能】

３）単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
古典作品のおもしろさにふれ、その内容が現代とつながっていることに気づき、興味関心をもって作品を読もうとしている	場面の展開や登場人物の描写に注目して古文や現代語訳を読み、それをもとに話の内容を理解している。	歴史的仮名遣いや文語の言葉遣いについて理解し、古文特有のリズムに慣れ、楽しんで音読している。

４）学習の基盤　*(※生徒観は省略)*

〈教材観〉

本単元は、中学校で初めて本格的に古文作品の学習を行う単元である。有名な古典作品については小学校でも作品名を中心にして少しずつふれてきており、いくつか記憶している生徒もある。本単元「竹取物語」は、私たちが幼い頃から慣れ親しんできたお伽話でもあり、生徒たちにとっても興味・関心をもって読み進めることができる教材である。有名な冒頭部分は、現代語と異なる古語が少なく、歴史的仮名遣いや古文特有の文末表現を見たとき、他の古文作品と比べて平易であり、中学生が古文学習の初めに音読する教材として適している。

かぐや姫に求婚する五人の貴公子たちがとった行動はすべて失敗譚として描かれている。それぞれが知恵をしぼり、財力等でもって難題を克服しようとするものの、すべて失敗に終わってしまう姿は滑稽であり、生徒も興味・関心をもって読むことができる教材である。また、読み取った当時の人々のものの見方・考え方と現代に生きる我々とを重ね合わせることで、今も昔も変わらない人間像について考えを深めることができる教材といえる。

〈指導観〉

この単元は、中学校で行う初めての古典学習である。生徒自身の新鮮な驚きや感想を大切にしながら、古典に対する興味・関心を高めていきたい。古文の音読においては、歴史的仮名遣いに注意して繰り返し読むことや暗唱することで、古文特有のリズムを感じられるようにする。その際、一斉読み、一人読み、グループ読みなど様々な形態で音読する機会を持ち、全員が自信を持って音読できるように配慮する。

本時では、かぐや姫の難題に挑む五人の貴公子の中からくらもちの皇子の失敗譚をとりあげ、彼が自らの地位と財力を最大限に利用してかぐや姫をだまし結婚しようとするまでの物語を分担して読み取る。複数の場面に分け、登場人物の描写や場面の展開に注目して読み取り、その内容をワークシートにまとめ、内容に対応する見出しをつける。その際はグループ学習を取り入れ、意見交換することによって適切に内容をまとめることができ、また見出しが内容と離れてしまわないようお互いに確認し合うことができるようにする。生徒たちに内容の読み取りを通して、くらもちの皇子の話に描かれる登場人物の考えや心情は、我々が生きる現代と共通するものであることに気づかせ、これから出会う古典の作品に対する興味・関心を育てていきたい。

５）単元の指導計画と評価計画（全６時間）

次	時	目　標	主な学習活動	評　価			
				国語	読む	言語	評価規準（評価方法）
1次	1	「竹取物語」の学習について見通しをもつ。	①「竹取物語」について知る。 ②仮名遣いに注意して冒頭部分（古文）を音読し、古文特有のリズムに慣れる。	○		○	【国】学習の見通しをもち、「竹取物語」の文章に興味関心をもって読もうとしている。（観察） 【言】歴史的仮名遣いや古文特有のリズムに気づいている。（観察）
2次	2	古文や現代語訳を読み、「竹取物語」全体の内容をおおまかにつかむ。	①冒頭部分の古文と現代語訳を照らし合わせて内容を読み取る。 ②現代語訳で書かれている部分を読み、「竹取物語」全体のあらすじを確認する。		○		【読】古文と現代語訳を照らし合わせて読むことで語句の意味がわかり、内容を理解している。（観察・ノート） 【読】「竹取物語」全体のあらすじをとらえている。（観察・ノート）
	3本	くらもちの皇子の失敗譚を	①くらもちの皇子の失敗譚について現代文を読み、登場人物の		○	○	【読】登場人物の描写や場面の展開に注意

	時 4	現代語訳で読み、その内容をとらえる。	描写や場面の展開に注意して読み、場面ごとにおもしろいところをまとめ、見出しをつける。 ②おもしろいところと見出し、紹介したい部分の古文を選んで発表する。 ③くらもちの皇子の失敗譚に全体を通した見出しをつける。				して読み、くらもちの皇子の失敗譚の内容を理解している。（ワークシート・観察） 【言】選択した部分について仮名づかいに注意して音読している。（観察）
	5	「竹取物語」の登場人物の心情を想像し、現代との共通点を考える	①かぐや姫の昇天の場面を古文と現代語訳、現代文で読み、かぐや姫と翁、帝の心情を想像する。 ②かぐや姫と翁、帝の心情に通じる現代で生じる場面を考える。		○		【読】登場人物の心情に普遍性を感じながらその思いを想像している。（観察・ノート）
3次	6	学習を振り返る。	①仮名遣いに注意するとともに、物語の展開や人物の心情を思い浮かべながら音読する。 ②学習を振り返って感想を書く。	○		○	【言】歴史的仮名遣いや古文特有のリズムを味わいながら古典の世界にふれている。（観察） 【国】学習を振り返り、古典の文章に興味・関心をもち読もうとしている。（ワークシート）

６）本時の学習

①本時のねらい

登場人物の描写や場面の展開に注意して読み、くらもちの皇子の失敗譚のおもしろさを理解することができる。【読む能力】

②本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
1　本時のねらいと流れを確認する。 くらもちの皇子の話のおもしろいと思ったところを見つけて見出しをつけよう。	○本時のねらいと流れを示す。	

２　教師のモデルを参考にしてあらすじのまとめ方、見出しのつけ方を理解する。	○生徒が知っている昔話を利用してあらすじをまとめるために必要な要素を例示する。 ○物語の「おもしろさ」とはどのような点をいうのかがわかるように例を示す。	
３　自分のおもしろいと思ったところを説明するために必要な部分を探し、線を引く。	○見つけにくい生徒には、おもしろいと思った部分とその理由を自分の言葉で説明できるように個別指導する。	
４　線を引いた部分についてグループで意見交換する。	○グループの中で出た意見に対して相互に質問や確認をすることにより、全員が自分の考えをもつことができるように指示をする。	
５　グループで話し合い、理由をふまえて見出しをつけ、発表方法を考える。	○見出しは、まとめてあるものと各自でつけたものとのどちらでもよいこととする。	【読】登場人物の描写や場面の展開に注意して読み、くらもちの皇子の失敗譚のおもしろさを理解している。 （ワークシート・観察）
６　ワークシートに本時の振り返りを記入する。	○内容の理解に必要な項目についてワークシートで確認させる。	

③本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
読む能力	登場人物の行動や場面の展開に注意して読み、くらもちの皇子の失敗譚のおもしろさに気づくとともにその人物像を理解している。	登場人物の行動や場面の展開に注意して読み、くらもちの皇子の失敗譚のおもしろさに気づいている。	グループの意見交換に備えて、おもしろいと思った部分とその理由を自分なりの言葉で発表できるよう準備させる。

④授業研究の視点

一人ひとりが自分の考えをもって意見交換をし、グループ活動に参加したことは、理解をより深めるために有効であったか。